

「初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発研究」 Developing an expressions module for beginning FL learning using cell phones

Andreas Kasjan

Reference data:

Kasjan, Andreas (2010) 「初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発研究」 Developing an expressions module for beginning FL learning using cell phones. In Reinelt, R.(ed.) OLE at JALT 2010 Compendium. Other Language Educators, JALT, Matsuyama, p. 56-57.

JALT 2010 (2010/11/20)
Creating improved OLE Learning enviroments

初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発研究

科学研究費補助金基盤研究 B (一般) 22320106

Andreas Kasjan

九州大学大学院言語文化研究院

kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

研究目的

携帯電話を初修外国語学習のためのツールとして活用できる多言語による携帯電話用の表現モジュールを開発すること

氏名	所属	役割分担
Andreas Kasjan	九州大学言語文化研究院	研究代表者
岡田義広	九州大学システム情報科学研究所	BMLテンプレート作成
岡野 進	九州大学言語文化研究院	ドイツ語コンテンツ開発
田中陽子	九州大学言語文化研究院	フランス語コンテンツ開発
山村ひろみ	九州大学言語文化研究院	スペイン語コンテンツ開発
田畑義之	九州大学情報研究基盤センター	エスペラント・コンテンツ開発
菅 美庚	阪南大学国際コミュニケーション学部	韓国語コンテンツ開発
李 郁恵	東北大学高等教育開発推進センター	中国語コンテンツ開発

研究の背景

The screenshot shows the 'CALL Deutsch' website. It features a header with the text 'CALL Deutsch' and a navigation menu. Below the header, there is a main content area with a video player and a list of language courses. The video player is titled 'CALLドイツ語' and has a play button. The list of courses includes 'ドイツ語の文法を学びます。' and 'ビデオスキット'. The website also has a search bar and a 'ヘルプ' button.

<http://gcall.rcedu.kyushu-u.ac.jp>

IDとPW 必要

研究期間内に何をを目指しているか

- 研究期間内には、初級レベルのドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、エスペラントによる携帯電話用表現モジュールを開発し、携帯電話を外国語学習のツールとして用いるコンテンツの提供を目指している。
- 本研究で開発する教材では、各言語は同じ内容を扱い、各ユニットは文字と動画・静止画のついた音声ファイルになる。外国語の文章は、暗記しやすいように原則として30語程度の対話文形式にする。

研究の特色

- 殆どの学生が携帯電話を持っており、イヤホンを使用すれば、どこでもいつでも携帯電話を語学学習のために利用できる。従って、携帯電話用の語学学習教材を提供すれば、外国語学習の機会や時間が増えると考えられる。
- 開発を目指している携帯電話用教材は、インターネットに提供する。使用者はインターネットに接続し、希望する教材のユニットを自分の携帯電話にダウンロードする。この教材は、外国語授業の補助となり、特に学生の聴解力や暗記力を養成する。
- ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、エスペラントが同じテーマを扱うので、各言語の比較ができ、多数の言語の学習が可能になると考えられる。
- 初修外国語は英語と比べてその言語に触れる機会が圧倒的に少なく、これが言語の習得の妨げになっているが、携帯電話を活用することによって、初修外国語に触れる時間が増えることになる。

研究方法

研究作業	内容
BML テンプレートの作成	携帯電話ワンセグ用の文字と動画、静止画のためのBMLテンプレートの制作。
教材の全体構造を設計	教材の範囲と内容を検討・設計し、ユニットの総数とそれぞれのユニットの題を決める。
WEB 上の入カインターフェース作成	コンテンツを携帯電話にダウンロードするためのインターネット上のインターフェースの作成。
各ユニットのテキスト・コンテンツ作成	各ユニットの内容に合わせて各外国語の文章とその和訳、および説明の部分を作成する。
ユニットのフラッシュムービー作成	各ユニットの内容に合わせてフラッシュムービーの作成。
諸データをインターフェースに埋め込む	ユニットのテキスト・コンテンツやフラッシュムービーをインターフェースに埋め込む。
試行とフィードバック	九州大学の全学教育における初修外国授業で試行し、学生のフィードバックに合わせて内容を訂正・調整する。
公開	一般市民向けシステムのデモンストレーション、関連学会での発表やユーザーマニュアルを作成する。

研究計画(2010年度)

改期	項目	予算執行
5月	第一回研究打ち合せ(九州大学) BMLテンプレートの作成 ~2月 データ処理用PC、ソフト購入	その他 設備備品費
6月	携帯電話用教材に適したデータの関連調査	図書類 謝金
9月	第二回研究打ち合せ(九州大学) 教材の全体構造を設計、収集したデータの処理 ~2月	謝金
1月	第三回研究打ち合せ(九州大学) 教材の全体構造の最終決定	
2月	教材の全体構造の完成 BMLテンプレートの作成の完成	

研究計画(2011/12年度)

時期	項目	予算執行
4月	第一回研究打ち合せ(九州大学) WEB上の入カインターフェースの作成 ~1月 ソフト購入 教材コンテンツの作成 ~12月	その他
9月	第二回研究打ち合せ(九州大学) それぞれの担当者によるコンテンツに関する中間報告 動画(フラッシュムービー)の作成を業者に外注 ~3月 関連学会での発表・報告	その他 国内旅費
12月	第三回研究打ち合せ(九州大学) 各言語の担当者による完成したコンテンツに関する報告	
1月	WEB上の入カインターフェースの作成の完成 コンテンツのインターフェースへの埋込み ~3月 声優による音声録音 ~3月	謝金 謝金
3月	コンテンツの修正・調整と完成	謝金
<small>注1) フラッシュムービー作成外注費(1時間目 3千円×6時間×3人) 450千円</small>		
4月	第一回研究打ち合せ(九州大学) 完成したコンテンツの試行	
7月	第二回研究打ち合せ(九州大学) 試行結果に基づく内容の修正・調整	その他
9月	関連学会での発表	国内旅費
12月	一般市民向けに教材紹介	国内旅費
2月	ユーザーマニュアル作成	印刷費
3月	科学研究費補助金研究成果報告書の印刷	印刷費

作業の現状

1. 教材の内容: 原則として旅行用の表現
2. 格ユニットの構造: 動画または静止画・外国語表現・和訳
3. 各ユニットの長さ: 原則として4行まで
4. 教材の長さ: 約30分
5. ターゲットグループ: 九大学生および多言語表現に興味がある人々
6. 特殊文字問題解決: 外国語表現は画像形式

コンテンツ作成における問題点

1. 旅行用の表現に限定するかどうか
2. 取り上げる文例
3. 携帯の画面の大きさとコンテンツの内容
4. 話し手と聞き手の関係:
隔たりの間柄と隔たりのない間柄

「初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発研究」 Developing an expressions module for beginning FL learning using cell phones

Andreas Kasjan

Reference data:
Kasjan, Andreas (2010) 「初修外国語による携帯電話用表現モジュールの開発研究」 Developing an expressions module for beginning FL learning using cell phones. In Reinelt, R.(ed.) OLE at JALT 2010 Compendium. Other Language Educators, JALT, Matsuyama, p. 58-59.

JALT 2010 (2010/11/20)
Creating improved OLE Learning enviroments

Research Project to develop an “Expression-Module” for Japanese Learner of a second FL

“Grand in Aid for Scientific Research” B 22320106

Andreas Kasjan

Kyushu University
Faculty of Languages and Cultures

kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

Research Purpose

Using cell phones as a learning device: Research project to develop a multilingual “Expressions-Module” for cell phones

Project Members	Institution	Role-Sharing
Kasjan, Andreas	Kyushu University Faculty of LC	Principal Investigator
Okada, Yoshihiro	Kyushu University Graduate School of ISEE	BML Template
Okano, Susumu	Kyushu University Faculty of LC	German Contents
Tanaka, Yoko	Kyushu University Faculty of LC	French Contents
Yamamura, Hiromi	Kyushu University Faculty of LC	Spanish Contents
Tabata, Yoshiyuki	Kyushu University Research Institute for IT	Esperanto Contents
Cho, Mikeyon	Hannan University Faculty of IC	Korean Contents
Lee, Yuhui	Tohoku University Center for Advancement of Higher Education	Chinese Contents

Research Achievements

The screenshot shows the 'CALL Deutsch' website interface. It features a header with the site name and a navigation menu. The main content area is titled 'CALL ドイツ語' and includes a sub-header 'CALL方式でドイツ語を学びましょう。'. Below this, there is a section for 'ビデオスクリプト' (Video Scripts) with a list of video titles and their corresponding video IDs. To the right, there is a section for '文法' (Grammar) with a list of grammar topics and their corresponding video IDs. The website also includes a search bar and a 'ヘルプ' (Help) button.

<http://gcall.rcedu.kyushu-u.ac.jp>
ID and PW necessary

Aims to be achieved during the research Period

- During the research period it is aimed to develop a multi-lingual “Expression-Modul” for cell phones. In order to provide cell phones as a LL device, contents in German, French, Spanish, Chinese, Korean and Esperanto will be developed.
- The contents of each language will be identical. Each unit will be equipped with sound files, target languages subtitles, motion pictures or still images. The text of each unit will consist of easy comprehensible dialogues of around 30 words in length.

Characteristics of this Research

- The use of cell phones is ubiquitous among students. If cell phones could be used as a LL device, they could be used almost anytime and everywhere. Therefore, time and opportunities to study foreign languages will increase.
- The projected LL device will also be provided in the internet, inabling 使用者はインターネットに接続し、希望する教材のユニットを自分の携帯電話にダウンロードする。この教材は、外国語授業の補助となり、特に学生の聴解力や暗記力を養成する。
- ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、エスペラントが同じテーマを扱うので、各言語の比較ができ、多数の言語の学習が可能になると考えられる。
- 初修外国語は英語と比べてその言語に触れる機会が圧倒的に少なく、これが言語の習得の妨げになっているが、携帯電話を活用することによって、初修外国語に触れる時間が増えることになる。

研究方法

研究作業	内容
BML テンプレートの作成	携帯電話ワンセグ用の文字と動画、静止画のためのBMLテンプレートの制作。
教材の全体構造を設計	教材の範囲と内容を検討・設計し、ユニットの総数とそれぞれのユニットの題を決める。
WEB 上の入カインターフェース作成	コンテンツを携帯電話にダウンロードするためのインターネット上のインターフェースの作成。
各ユニットのテキスト・コンテンツ作成	各ユニットの内容に合わせて各外国語の文章とその和訳、および説明の部分を作成する。
ユニットのフラッシュムービー作成	各ユニットの内容に合わせてフラッシュムービーの作成。
諸データをインターフェースに埋め込む	ユニットのテキスト・コンテンツやフラッシュムービーをインターフェースに埋め込む。
試行とフィードバック	九州大学の全学教育における初修外国授業で試行し、学生のフィードバックに合わせて内容を訂正・調整する。
公開	一般市民向けシステムのデモンストレーション、関連学会での発表やユーザーマニュアルを作成する。

研究計画(2010年度)

改期	項目	予算執行
5月	第一回研究打ち合せ(九州大学) BMLテンプレートの作成 ~2月 データ処理用PC、ソフト購入	その他 設備備品費
6月	携帯電話用教材に適したデータの関連調査	図書類 謝金
9月	第二回研究打ち合せ(九州大学) 教材の全体構造を設計、収集したデータの処理 ~2月	謝金
1月	第三回研究打ち合せ(九州大学) 教材の全体構造の最終決定	
2月	教材の全体構造の完成 BMLテンプレートの作成の完成	

研究計画(2011/12年度)

時期	項目	予算執行
4月	第一回研究打ち合せ(九州大学) WEB上の入カインターフェースの作成 ~1月 ソフト購入 教材コンテンツの作成 ~12月	その他
9月	第二回研究打ち合せ(九州大学) それぞれの担当者によるコンテンツに関する中間報告 動画(フラッシュムービー)の作成を業者に外注 ~3月 関連学会での発表・報告	その他 国内旅費
12月	第三回研究打ち合せ(九州大学) 各言語の担当者による完成したコンテンツに関する報告	
1月	WEB上の入カインターフェースの作成の完成 コンテンツのインターフェースへの埋込み ~3月 声優による音声録音 ~3月	謝金 謝金
3月	コンテンツの修正・調整と完成	謝金
<small>注1) フラッシュムービー作成外注費(1時間目 3千円×6時間×3人) 450千円</small>		
4月	第一回研究打ち合せ(九州大学) 完成したコンテンツの試行	
7月	第二回研究打ち合せ(九州大学) 試行結果に基づく内容の修正・調整	その他
9月	関連学会での発表	国内旅費
12月	一般市民向けに教材紹介	国内旅費
2月	ユーザーマニュアル作成	印刷費
3月	科学研究費補助金研究成果報告書の印刷	印刷費

作業の現状

1. 教材の内容: 原則として旅行用の表現
2. 格ユニットの構造: 動画または静止画・外国語表現・和訳
3. 各ユニットの長さ: 原則として4行まで
4. 教材の長さ: 約30分
5. ターゲットグループ: 九大学生および多言語表現に興味がある人々
6. 特殊文字問題解決: 外国語表現は画像形式

コンテンツ作成における問題点

1. 旅行用の表現に限定するかどうか
2. 取り上げる文例
3. 携帯の画面の大きさとコンテンツの内容
4. 話し手と聞き手の関係:
隔たりの間柄と隔たりのない間柄